

設問29
(34)

コーディネーターとしての活動にお役立ていただきたく、フォローアップ研修を計画したいと考えています。
これまでのコーディネーターとしての経験を踏まえて、研修に加えて欲しい事項があれば教えてください。

記述

1	地域の医療機関(NICUのある)との連携システムをあらかじめ構築していくための方法
2	上記にも記載したような(連携が取りやすいネットワークがあればより良いと思うが、現状は比較的充実している方かと思う。社会資源の拡充も必要ではあるが、対象児者の状況によって必要な資源はさまざまである事から、実践報告などで各地域の格差を埋められるようなアイデアを考えられる場や、それを具体的に形に出来る協議の場も必要と思う)、様々な実践を知れる機会があればと思う
3	コーディネーターとしての活動の場として、ほかの地域ではどのような環境を地域と共に創っているのか事例をもとに学びたい
4	地域資源開発の事例・医療的ケア児者への各自治体独自の取り組みなどを学べる機会があると嬉しいです。
5	コーディネーターがその役割を持って活動されている先進例があるのであれば伺いたい。
6	基礎知識の確認・活動報告
7	家族が持続して暮らしていけるように生活プランとしてのサービス構築の仕方
8	資源の紹介。制度の理解。
9	経験がないので事例検討など教えてほしいです
10	NICUから在宅移行までの事例紹介、事例検討。
11	事例検討や実際の支援例など。
12	ケース事例などを聞いてみたいです。
13	サービス調整の事例
14	地域ごとの社会資源が分かり、支援の実例などを具体的に知ることが出来る内容のもの。
15	多職種との連携やネットワークの構築方法・動ける医ケア児への理解促進や支援・教育との連携(入学相談)
16	医療・福祉等における連携実践例など
17	コーディネーターとしての経験が浅いので実践報告などが聞いてみたい。
18	社会資源に関する情報交換
19	利用できる資源や新しい資源の作り方などを知りたいです。いざという時に、相談できる場所を知りたいです。
20	オンラインでの方法もあれば参加しやすい(コロナ禍において、町外や管外に出ることはできない。市町村職員が感染するわけにはいかないで)。
21	現在コーディネーターとして活躍されている方の事例や実体験談を聞きたい。
22	医療的ケア児支援法と活用できる制度について知りたいです。
23	残念ながらコーディネーターとして活動していないので、特に思い浮かびません。ですが、フォローアップ研修は是非受けたいと思います。
24	具体的役割の内容を共有を参考にしたい。
25	他の地域での取り組み(市町村の規模、行政での取り組み)・ケースの共有
26	私は看護師であるため、福祉制度に関する事など知識が浅いです。福祉手帳のことやそれにとまなう助成のことなど、更新される情報と地域(市町村)によって差があるというところで、いつもよくわからない・覚えきれないものになっています。
27	フォローアップ研修は、間違いなく必要でコーディネーター養成研修を受けたからと言って、コーディネーターになれるようにはならないと考えます。大切なのは、事例検討ではないかと思えます。講義を聞くだけではできるようになりません。
28	困難事例の打開策の事例発表。できないではなく、どうしたらできるかを実践する方法。各地域になくても、近隣市町村で協働して支援している内容など。 札幌市内では何とかなるが、札幌で集中治療を終えて地域に帰るときの困難を感じている病院は多いはず。
29	基礎をまたしっかりと学びたい
30	新規サービスを地域に拡大した事例があれば、その経緯と戦略
31	現在の制度のアップデートされた部分について知りたい(変更点)。実際にコーディネーターにあたった方々のケースのお話を伺いたい。 WG形式で行われるのであれば他のグループのケース例も知りたい。教育現場で大きく変化している医ケア児を取り巻く状況を知りたい。
32	地域の資源づくりの事例。僻地地域での実践・事例など
33	現状では存在しない/不足している資源を作り出す際のネットワーク作りあるいは行政とのやりとりの仕方
34	コーディネーターとしての活動の経験がない為、すでに活動している方の実践例を伺ったり、その中での課題なども伺いたいと思います。

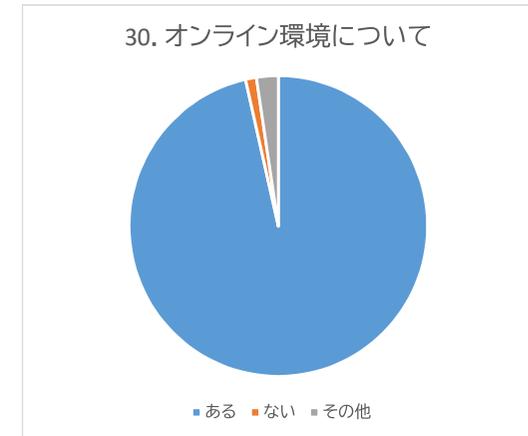
設問30 フォローアップ研修については、オンライン会議を活用する可能性があるため、オンラインの環境について教えてください。

(85)

	オンライン環境	(人)
1	ある	82
2	ない	1
3	その他	2
	計	85

【その他の内容】

1	自事業所にはオンライン環境はないが、自宅や別の施設からオンライン研修に参加することは可能。
---	---



設問31 その他、医療的ケア児者やその家族への支援等について本調査以外のことでご意見等がありましたら、自由にご記入ください。

(22)

記述

1	令和3年6月施行の医療的ケア児者支援法が出来ても、まだ市町村レベルで横並びに支援できる体制には至っていないため、最終的に現場で動く支援者や保護者の方が困惑する現状があります。また、地域によって支援力に差がある事を心得てはいますが、地域づくり、人材育成等は本当に時間がかかり、根気と体力や費用など、様々な事が絡み合ってくる事を実感しています。行政の方も調査だけでなく、施策に関する事などにご尽力いただいていると思います。今回もお疲れまででした。
2	コーディネーターとしてではなく、今の立ち位置でできる限り相談業務を行っています。実際は通所事業所ですが、契約していない児童の家庭訪問も必要に応じて行っております。市町村によって環境が違いますが勤務市町村ではコーディネーターがいるといった認識で物事が動いているかもわからないので本当に医療的ケアコーディネーターは必要なのかと考える事もあります。
3	意見ではないのですが、コーディネーターとして一から支援に携わった経験はなく、計画相談の引継ぎにより、支援の道筋がほぼ定着しているケースの関わりでした。そして現在は就労事業所へ異動しているので、全くコーディネーターとしての業務や関わりがなく、回答もあまり記入できませんでした。
4	医療的ケア児者の実態(人数・ケア内容等)を把握されている状況ではないと感じています。医療的ケア児者やその家族への支援を考えて行くために、実態を把握した上で、課題整理・資源開発等の取り組みができるのではと感じています。市町村自立支援協議会・医療的ケア児支援検討会にて、その必要性を伝えていますが、圏域としての取り組みも必要かと感じます。
5	支援対象は医ケア児を含む家族全体であるため、家族のレスパイトなどが優先されがちになっているが、コーディネーターは、本人の愛着形成・育ち・発達などの視点を根底において支援内容を検討してほしい
6	実務が無い物に対してのアンケートは無理があると思います。
7	特に児童の場合は重度訪問介護も使えないため、居宅介護の支給量だけでは家族が働きながら支え続けることは不可能(特に母子、父子家庭など)。家庭状況、家族状況も勘案しながら、柔軟な支給決定をしてもらえるようになってほしい。
8	医療的ケア児者の実態把握ができると良い。
9	研修を修了しても自分が関わっていたケースを除いては、なかなか医ケア児者に関わる機会がない。コーディネーターの存在を対象者や行政などに広報することが必要と思われる。コーディネーターのつながりを、北海道相談支援専門員交流会なども巻き込んで体制を作る必要があると思う。
10	コーディネーターへ繋がっていない方がたくさんいるのですが、どのようにコーディネーターへ繋がっているのかわかりません。
11	相談員ではなく、生活介護の現場で働いていますが、このコーディネーターという資格をうまく活かせていません。決まった相談室がある方はそこを利用しています。どのように介入しているのかわかりません。

12	<p>医療的ケア児を受け入れている、福祉サービス関係の事業所の維持はとても厳しい。(多職種の配置、利用者のお休みなど)ぎりぎりのところでサービス提供をしているため、事業所が閉鎖してしまったり、質の担保が難しいと感じる事が多い。維持できるような報酬であってほしい。また、難しいのであれば行政で継続してもらいたい。共働きの世帯が多い中、医療的ケアがある事で保育園を利用できず復職できないご家族が多い。保護者が就労できるように保育園の受け入れ先が増えると良い。また、体調が安定しないお子さんのため、児童発達支援で延長できると、療育も受ける事ができ良いと思われる。</p>
13	<p>現在は、医療的ケア児に数例しか関わっていませんが、相談支援が機能するための仕組みと連携が必要と考えます。何年経っても、ご家族が中心になって支援の調整を行なっている。また、出生後早い時期に伴走者を作ることで、ご家族の負担軽減とスムーズな在宅移行ができるものと考えますが、まだまだ医療機関への周知が進んでいないところがあるようにも感じます。地域で、関われる事を自分の立場で行なっています。</p>
14	<p>必要なサービスの提供や環境を整えても、医療的ケア児の体調が安定せず利用に繋がらないケースもある。保護者等の急病や急用に対応できるだけの社会資源が地域にない。医療的ケア児の情報がほとんどない。市からの相談はない。</p>
15	<p>どこでどのように活躍できるのか また、誰に活躍したいと伝えればよいかもわからない。 当校に医ケア児はたくさんいるがコーディネーターとしての役割がわからない。</p>
16	<p>私は看護師でNICUで働いています。その中でコーディネーター研修での学びを組織還元して退院支援に実践しています。地域でコーディネーターの役割を活かしてはいませんが、これから地域へ帰る患児・家族のそばにいる側だからこそ、地域へ伝えられることがあると考えています。コーディネーターという名前で、どこに所属しているかがわかれば、そこで何を調整できるか、どこにつなぐかは実践できるはずだと思います。</p>
17	<p>各行政や病院にコーディネーターの活動を知らせて欲しい。</p>
18	<p>医ケアのコーディネーターの存在や重要性等を地域に周知させるため、どのような働きかけが有効か、またただ資格を有するだけではなく、有益なコーディネーターとなるための研修などの企画をお願いしたいです。(成功例よりも失敗例や苦労していることなど)</p>
19	<p>教育・医療・福祉それぞれで言われたことを、他施設のどの人にどんな内容で伝えればいいのか、保護者がコーディネートする限界を感じる。分野をまたいでコーディネートできる立場の人がいることをそれぞれの分野の人にも、保護者にも知っていただけて活用してもらえるとよい 教育・福祉・医療それぞれの分野が互いを知っているようで知らない・尊重した関わりにならない場合が多々ある。ケースについて各分野の視点を出し合い 観点を共有できるとよいのですが日常業務の名のもとにその機会を逃している気がします。</p>
20	<p>現在、コーディネーター業務を兼務で実施しているため、部署としてコーディネーターを増やす予定です。道の養成研修は次回いつ実施する予定ですが、それに関わる予算要求の関係で、早めに教えていただけると助かります。よろしく願いいたします。</p>
21	<p>者にスポットを当てた支援について。児への支援にはある意味ゴールがあるが、成人した後の支援は先が長く、教育が繋がれなくなる分、課題が大きい。 医ケアの無い、重心児者への支援について：繋がれる機関が医ケア児と同じくらい少なく、どこにも通所せず、在宅生活を余儀なくされているケースも少なくは無いと思われる。医ケアが無い分、医療機関との繋がりも希薄となり、ある意味でさらに繋がれる機関が少なくなっている・限定されている方もいらっしゃるのでは？と感じる。</p>
22	<p>コーディネーターの存在をたくさんの人に知ってもらい、医療的ケア児やそのご家族が困ったときに、スムーズに繋がって気軽に相談できる環境が整うと良いな と思います。</p>